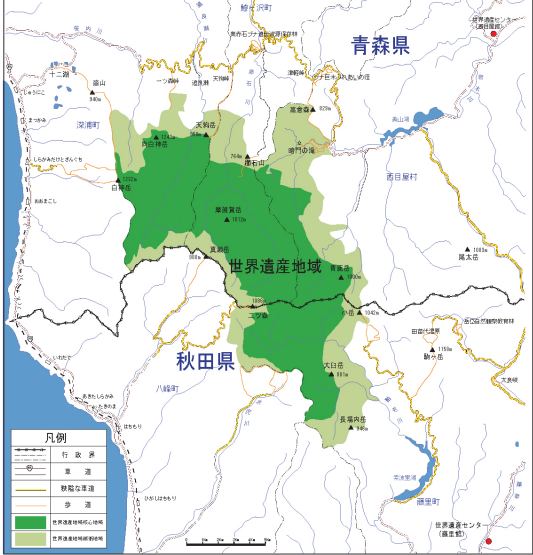


ID ^{注1)}	251207	公開レベル ^{注1)}		保管形式 ^{注1)}		保管場所 ^{注1)}		前回ID	241208
-------------------	--------	----------------------	--	---------------------	--	---------------------	--	------	--------

報告書名称 /調査名称	令和7年度 小岳のハイマツ群落におけるマツノクロホシハバチの生息状況調査						発行年月/報告年月		
							2025年	10月	
							資料形式 ^{注2)}		
調査機関	東北森林管理局 藤里森林生態系保全センター			委託機関					
調査開始年	2007年	9月	調査期間	2025年	10月	～	2025年	10月	
調査頻度 ^{注2)}	毎年	1回	調査時期 ^{注2)}	— — 秋					
モニタリング計画	2022年7月 改訂	区分 ^{注2)}	IIA	大区分 ^{注2)}	2	小区分 ^{注2)}	(1)		
調査箇所・範囲 ^{注3)}			調査手法						
☐ 核心地域 ☒ 緩衝地域 ☐ 周辺地域 ☒ GPS等の位置データあり			<p>■目的 ハイマツの葉を食害するマツノクロホシハバチの防除手段を検討する上での基礎資料として、小岳山頂一帯に生育するハイマツ群落でハバチ類の発生状況を記録する。</p> <p>■調査地・調査方法 小岳山頂に至る登山道沿いで最初にハイマツ立木が見られる箇所（N40° 25' 51.23" /E140° 11' 56.81" 標高976m：写真1）から小岳山頂（N40° 25' 57.99" /E140° 11' 52.08" 標高1042.5m：写真2）まで約250mの登山道を調査ルートとして設定し（図1）、ルートの左右約2mの範囲に生息するハバチ類の幼虫の集団数をカウントする。発生数が少なく、可能であれば個体数まで記録する。 幼虫を確認した箇所は緯度経度を記録し、図面上にプロットする。調査ルート外のハイマツについては、登山道上から8倍の双眼鏡を使用して加害状況を確認する。ルート外の被害箇所については、植生保護の観点から緯度経度の計測は行わず、ルート上から確認した位置を図面上に記録するのみとする。</p> <p>■調査時期 マツノクロホシハバチの食害ピーク時に合わせ、9～10月の秋期に1回実施する。</p>						
 <p>※周辺地域における調査箇所は備考欄に示す。</p>									
結果概要（スペースに収まるように入力してください）									
<p>令和7年10月17日に現地調査を行ったところ、調査ルートの中間地点でハイマツの枝1本が食害により一部枯れているのを確認した。食害は一部のみで約20匹のハバチが寄生していた。ハイマツ群落に広く被害を及ぼす程度ではなく、寒冷期に入ることから収束すると判断。</p>									
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真ー1 登山道沿 食害により枯れたハイマツの枝</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真ー2 ハイマツの葉に寄生するハバチの幼虫</p> </div> </div>									
問い合わせ	東北森林管理局 藤里森林生態系保全センター 〒018-3201 秋田県山本郡藤里町藤琴字大関添24-3 TEL：0185-79-1003 ※「原簿（データ）の帰属について」								

注1) 「ID」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。

注2) ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。

注3) 該当する項目の口をクリックし、チェックを入れる。

備考

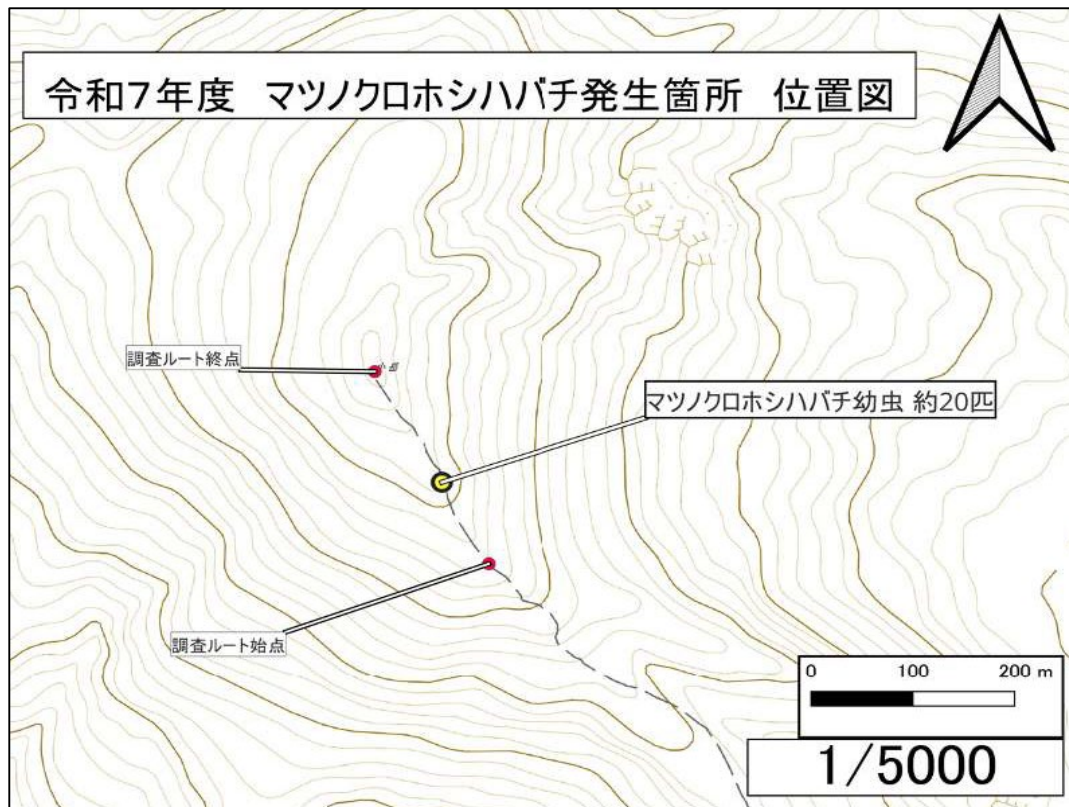


図1 調査ルート位置図 (電子国土Web 地理院地図使用)

※参考写真データ

調査ルート外のハイマツについて、8倍の双眼鏡による目視調査及び高倍率デジタルカメラを用いて広角撮影と倍率を高くして同箇所を撮影、さらにパソコンのモニターでの確認も行った。



写真-3 登山道から双眼鏡による目視の様子



写真-4 登山道からハイマツ個体群を広角で撮影



写真-5 登山道から他のハイマツ個体群を広角で撮影



写真-6 写真-5の写真を高倍率で撮影